判例（のようなもの）

・フォントは基本１０・５としましたが、必要に応じて変えたところもあります。

・基本的な表記は原資料と同じく旧字体・旧仮名遣いとしています。

・「※」がついている括弧はその漢字の読みで、私が挿入しました。

・２ページ目と８ページ目にある赤色の四角（□）は、文字がかすれて見えなかったところです。

・２ページ目から８ページにある太い黒線の右側までが原資料の上部、黒線の左側から最後までが原資料の下部になります。

震災後の一年間

震火災の甚しかつた東京深川方面の復活状態を空中より寫したもの

此の面挿入の復興寫眞は全部去る八月末に本社の特派員が出張撮影せるものに係る

新らしく生きんとする帝都

一瞬の間に百億の富を焼き十萬の生靈を奪つた、大正十二年九月一日午前十一時五十八分四十五秒の大地震―それから恰度（※ちょうど）一年になる。地球はグルリと一公轉して荒された關東の天地もあらたまつた。灰燼は整理され焼跡にはバラックが稠密（※ちゅうみつ）し賑かな銀座の街頭は美しい人のゆきゝで滿されてゐる。過去一年間に集積された人間の力は、とにも角にも焦土の帝都に新生命を吹きこんだ。

大變だつた灰燼の整理

総坪數二十萬坪、焼失區域の灰燼整理の方法として整理班を三つに分ち第一班は日本橋、京橋、本所、深川方面、第二班は下谷、赤坂、淺草、本郷、小石川、神田、第三班は麹町、芝、赤坂方面。去年の九月二十七日より十一月十五日までは市の直營で運搬に従事した。灰燼は焼跡附近の適當な河岸や路傍に搬出し更に船舶、馬車自動車、手車等で京橋附近は本湊町□十一番地先より同區明石町二十三番地に到る河川又は低地の埋立に使ひその他は本所深川へ船で運んだ。十一月十五日以後は之を請負の手に渡したが其整理費五百萬圓使用人員延數二十萬人本所深川方面へ搬出された灰燼は約十萬坪全部の整理に今年の六月迄かゝつた。

どれだけ焼跡へ歸つたか

郊外の安全地帯東北、關西方面に落ち延びた罹災者も日の經るに従つて復歸して、今年の六月末日までに復歸した罹災者數は警視廳七月一日現在の調査によると

區名	戸數	人員	區名	戸數	人員	區名	戸數	人員
麹町	三〇〇七	一五五九九	神田	一八二七六	九二〇〇〇	麻布	七	四〇

赤坂	八八八	四二五八	四谷	三〇一	一一六七	日本橋	一四九一九
京橋	一七七九二	八四四三八	芝	一〇〇〇二	四八四五二	牛込	—
小石川	五三〇	二四三二	本郷	四一五九	一五三一四	下谷	一九一八五
淺草	三九三九五	一七五〇一一	本所	三五〇八七	一四三〇七四	深川	二五八七〇
計	一八九四一八	八六七五九三					

八一〇二四
—
八七四八七
一一七二九七

即ち十八萬九千四百十八戸、八十六萬七千五百九十三人の復歸者を見た。

地震前より減つた世帯と人

震災前の大正十二年七月一日東京市の總世帯數は四十四萬一千八百七十二、人口二百三萬六千百卅六、之に對して現在の總世帯數は卅七萬六千四百十三、人口百七十四萬千五百、即ち震災前に比し現在世帯數に於て六萬五千四百五十九、人口に於て二十九萬四千六百三十六人減少してゐる、其細別は次の通り。

	震災前（十二年六月末現在）			震災後（十三年六月末現在）		
	世帯數	男	女	計	世帯數	男	女	計
麹町	一〇三九三	二八四七五	二六五〇七	五四九八二	九八五〇	二四九七四	二三五一九	四八四九三
神田	二六六一〇	八〇〇九八	五九四三九	一三九五三七	二〇八〇三	五九三〇九	四三五五一	一〇二八六〇
日本橋	二〇〇八七	六六七六二	四九〇五四	一一五八一六	一五七二六	五一五三四	三三五三六	八五〇七〇
京橋	二七五四六	七一二三七	六〇〇八六	一三一三一三	一九八六六	五三〇三五	四〇七九八	九三八三三
芝	三四六三六	八八二三二	七八七〇三	一六六九二五	三三三〇五	八五一三〇	七三七一一	一五八八四一
麻布	一八三三四	四一九三七	四〇五一三	八二四五〇	一八二二九	四三五七三	四一三三三	八四九〇五
赤坂	一一一五一	二六五六八	二七八三五	五四四〇三	一一四二七	二八〇七九	二七八五三	五五九三二
四谷	一五二九六	三四三五七	三三二五〇	六七六〇七	一六三一五	三八〇一二	三六五〇五	七四五一七
牛込	二五二六三	五九六〇二	五七二四八	一一六八六〇	二六三四四	六四八九四	六〇九五五	一二五八四九
小石川	三〇九三五	七三一二〇	六八一九七	一四一三一七	三一九七七	七七三一七	七二一一八	一四九三三五
本郷	二六二五三	六三五四一	五九七九九	一二三三四〇	二五八五五	六六四四四	六〇九八九	一二七四三三
下谷	四〇八〇五	九一九一七	八二四二七	一七四三四四	三六四二三	八三二一八	七三〇四〇	一五六二五八
淺草	五六九〇二	一二五二〇七	一一六六三八	二四一八四五	四五三六九	一〇四八九八	九二九七一	一九七八六九
本所	五四九八七	一三一四二四	一一二八五七	二四四二八一	三七三五五	八八五一一	七〇九四九	一五九四六〇
深川	四二五七四	九四九七九	八六一一五	一八一〇九四	二七五六〇	六五三七七	五五三三一	一二〇七〇一
水上	—	一六	一六	三二	九	一八	一九	三七
合計	四四一八七二	一〇七七四五二	九五八六八四	二〇三六一三六	三七六四一三	九三四三三三	八〇七一一七	一七四一五〇〇

芝の三田、高輪方面、麻布の六本木、赤坂の青山、牛込の神樂坂、早稲田方面、小石川の富坂、大塚、本郷の駒込、下谷の谷中に、四谷方面は震災後却つて世帯數、人口共に増加してゐる、これはいふまでもなく罹災者の集合生活によるもので從つてこれまで大した町でもなかつたところが急に賑ひ出したりしてゐる。現に澁谷の百軒阪の如き第二の銀座を現出しつゝあり、日比谷公園内も今にバラック街の電燈煌々、東正門入口から内幸町まで淺草の中店の如き賑はしさを見せてゐる。しかしこれは近く追ひ拂はれることになつてゐる。

交通通信機關は何うなつた

地震と共に帝都の交通機關は明治初年の昔に返つて荷馬車に筵の幌かけが乘合自動車に代る、正に百鬼晝行のありさまだつたが一年後の今日ではキレイに復舊した。中には震災前より遥かに增加したものもある。

自動車　　の如きは震災前四千五百臺、内五百六十六臺を燒いたが、復興材料の運搬その他に激增して三月末日までの關税免除期までは一箇月約五百臺づゝの增加を見、四月以後は幾分減少したがそれでも約百臺づゝの增加、現在市中の總數は九千七百九十七臺、その内自家用が乘用貨物を合して七千三百八十四臺、營業用が一千四百十五臺、官公署用九百九十八臺だ。

電車　　郊外は全部震災前と同じになり、市内は車輛數に於てボギー車、單車を合して尚ほ二百六十臺減少しているがボギー車の補充が以前より約五十臺增してゐるから輸送能率は以前と略（※ほぼ）同樣になつてゐる。六月までの電車復舊の狀態を表にすると

	震災前	昨年九月末	本年一月末	五月末	六月末
運轉哩數	哩（※マイル） 一八二一九六	五二六九六	一二六九二九	一六四九五九	一六六四七九
車輛　ボギー	輛 一三三	六四三	八一七	一一一九	一一八〇
車輛　單車	七七三	五〇三	三七五	四四五	四六五

乘合自動車　　震災後東京の郡部は大発展を來し郊外移住者が增えたのでこれ等郊外移住者を當て込んで隣接町村の乘合自動車營業の出願者多く現在では經營者四十、五十系統の乘合自動車會社があつて臺數は市の所謂圓太郎四百臺を始めとして東京市外乘合自動車の二百臺その他は十臺乃至（※ないし）二十臺を有するほんの小規模のものではあるが、八月中に市の圓太郎だけでも延人員百十一萬二千五百人の乘客を運んでゐる。

諸車　　人力車はウンと燒けたのと、激增した自動車に押されて段々影がうすくなり現在市内は郡部を合して一萬七百八輛、自轉車は激增し警視廳管内で總數三萬臺を突破した。荷馬車は他府縣から入り込んできた數も相當あり正確な調査は出來てゐない。

水上交通　　震災前までは芝浦に出入する船舶數が一日十艘内外であつたが、直後は例の救濟品復興材料の輸送で横濱港が崩れ陸線が不能であつた關係上新開港場の如き壯觀を呈し千噸級以上の船艦が五六十隻も投錨した、今では復興材料も既に整ひ陸線の復舊と相俟つて（※まつて）二三十隻の小型の商船を見るのみである。河川の交通機關としての艀船（※はしけぶね）も隨分燒失したがその後全國から寄り集

つてきたこれらの艀船は大河筋にさながら艀船の展覧會を開いたやうで、時々大きな奴が永代橋の橋桁などに打つ突けては電車を止めたり、今ではその數に於て震災前と異らぬのみか寧ろ輸送力に於ては増加してゐる。然し復興材料品の運搬物が増加したからまだ〳〵不足の状態にある。

以上の如く交通機關としての能率は既に震災前に近い復興力を示してゐるが、橋梁の修覆完全ならず道路の舗装も壊れたるところ多く、水道瓦斯の工事その他で道路としての輸送率が低下してゐるから交通状態はまだ〳〵悪い。

電信　線路は全部復舊した、人員も整つて割合に緊張してゐる結果か震災前よりはかへつて成績は良好であるが良い機械は全部焼いてしまつて此方にはまだ復舊の手が動いてゐない。

電話　震災前の總加入者數は八萬四千、これに對し今年の七月末までに三萬七千九百まで復舊、八月に入つて更に二千四百ばかり復舊した。自働電話は五百六十個を焼いて残存四百二十四個のうち現在二百八十個まで復舊してゐる。

水道や瓦斯や電燈は？

水道　水道鐵管破裂の箇所は當時二〇四箇所、漏水箇所四萬一千三百八十七箇所、消火栓の破損百五十二、阻水弇（※そすいえん）の破損六十五、排氣弇十一、チエツク弇一、量水器十四、水路の決潰間數府下和田堀村廿間、代々幡（※よよはた）町字幡ケ谷廿間、亀裂箇所二百四十箇所の多きに達してゐたが、これらは應急修理の結果震災後四日目から深川、月島方面を除く自然流下區域の水道は全部復舊し、十七日には動力送水區域小石川、本郷牛込等の所謂山の手及び高臺地域にも送水するに至つた。鐵管の取換への總數は赤坂區、内徑千百粍（※ミリメートル）鐵管の供給一箇所、京橋區、内徑九百粍鐵管の供給一箇所、其他百五十粍以下鐵管七箇所で、給水栓の現在數は既に卅七萬二千百とまで漕ぎつけたが、送水復舊完成期は本年十月中旬と見られてゐる

瓦斯　焼失區域に於ける復舊は千住及び深川に於ける瓦斯製造所及び瓦斯タンクが就れも無事であつたから輸送管に應急修理を施すと共に九月二十二日災後はじめて本郷區の供給を開始し小石川區は二十六日より、麹町區は二十七日より漸次供給範圍を擴張して十月三十日には残焼區域全部に供給した、残りの焼失區域も十三年十月中には全部復舊を見る筈である。

	震災前	九月末	本年一月末	五月末	六月末
使用戸數	一九五〇一二	八二七二五	九二二〇六	一〇九九〇二	一七四九七七
供給總量（立方呎（※フィート））	四六一一七六〇〇〇	九〇〇〇〇〇	四七八七三八〇〇〇	四三五三五五〇〇〇	四三九六〇八〇〇〇

電燈　市電は本年四月、東電は昨年末全部復舊して震災後の點燈數は次の状態を示してゐる

	震災前	九月末	一月末	五月末	六月末
	個				
市電	五九八四五五	四七五二一三	五六二一〇九	六〇四七九五	六一四八七六
東電	二一九五七八四	六八九八	四四三一二四	七一九二四九	一〇四七一一一

學校もたいていは開いた

小、中、高等女學校、實業學校、專門學校、大學で罹災したのは二百十校（總數三百七十四校のうち）、震災後廢校となつたのが小學校に六、尚ほ休校中のもの小學校に六、專門學校に一校あるも、その他は私立學校まで全部開校した、八月七日現在の各學校の状態は次の如くである。

學校種別	震災前の校數	罹災全燒	全潰	半燒大破	廢校	休校	市外移轉	開校	新設
小學校	二三一	一三九			六	六	一	二一八	
中學校	三〇	一一	一	二			一	二九	二
高等女學校	三六	一二	二				一	三五	三
實業學校	二四	一七						二四	一
師範學校	二							二	
高等師範	二	一						二	
教員養成所	六	三						六	
高等學校	一							一	
專門學校	二九	一四			一	二	二六	二	
大學校	一一	六					一一		
盲及聾學校	二						二	二	
計	三七四	二〇三	三	四	六	七	五	三五六	一〇

新東京は斯うして成る！

新東京としての街路、運河、公園、土地區劃整理は東京府市、神奈川縣、横濱市共同の下に進めることになつてゐるが、特別都市計畫委員會では、事業案のうち、街路及び運河は今年の二月二十八日に、土地區域制は東京は三月二十八日に、横濱は同二十七日に、市場と公園計畫案は四月二十三日に、小公園五十二個を設けることは六月二十七日に、いづれも可決されて、目下委員會は商業地域、工業地域、住宅地域、防火地域の指定につき協議することになり大體の基礎が定められた。

街路　の現況は東京市内四箇所の復興局出張所に於て既に市内の幹線道路十一萬六千百八米のうち十一萬三千百一米までの測量を終り、補助道路十三萬六千四百九十五米のうち十二萬六千九百九十二米までの測量をも終へたが、區劃整理と關係ない部分で左の各線は今年度内には擴張工事に着手されるまでになつている。

▲有樂町一丁目から木挽町三丁目を經て月島二號地に至る線　▲上野公園前から駒形町を經て押上に至る線　▲永樂町一丁目の濠端から元千代田町に至る線　▲櫻田門

外から新議事堂前に至る四十間幅の大道路　▲芝今入町から愛宕町を經て赤羽橋に至る線　▲大手町一丁目から一つ橋雉子橋を經て飯田橋に至る線　▲一つ橋内から南神保町を經て伊岐殿阪に至る線　▲神田橋内から小川町湯島四丁目本町一丁目を經て同三丁目に至る線　▲越中島から濱園町へ至る線

橋梁　街路の一部分となる橋の施設も相當進んで、千代田橋、神田橋、法恩寺橋、親父橋、汐見橋、相生橋、今戸橋、船木橋、福島橋、黒亀橋は假橋が竣成し、江東橋、菊三橋、澤海橋、聖橋は既に基礎工事に着手、隅田川に跨る駒形橋、蔵前橋、相生橋の大鐵橋も近く本工事に着手しうるまでになつた。

運河　今年の六月上旬より着手された西堀留川の埋立は既に五分通り出來上り、日本橋川、横十間川は九月中には着手の豫定で荒川筋と日本橋濱町河岸の埋立は今實測中である。

公園　現在東京市の公園は大小併して二十九箇所、この面積七十五萬坪、人口百人に對して二十坪の割合であるが、今度の計畫では、大公園は國で、小公園は市でやることになつて、隅田川の両岸に隅田公園（三萬一千坪）本所に錦絲公園（一萬八千坪）濱町に濱町公園（一萬一千坪）の三大公園を新設するが、既に實測は終つた。市でやる小公園は小學校にくつつけて五十二箇所、一公演平均千坪の見當で區劃整理の結果位置決定と同時に順次設備される。

土地區劃　これも復興地域を六十五地域に分ち、うち十五地域だけを復興局の手で實施するので、これは本年三月二十日區域の告示があり、第六區（神田駿河臺）を始めとして、八月十八日までに十五地域の區劃整理委員會の委員の選擧を終り五月二十日に始めて第六區の委員會を開いて、區劃整理の街路、整理前後の路線價指數地位置及び面積の決定を見、同地域は既に第一の杭打をはじめたので九月二十日に移轉命令を發するまでにいたつた。

花街　目につくのは洲崎と吉原の復活の早やかつたことで、粗末ではあるが木の香新らしい二階家の新づくりに絃歌のさんざめき嬌まかしい女の聲はつきぬ。吉原の入口には以前とおなじ恰好の見かへり柳も植ゑられた、大門も建つた、貸座敷、引手茶屋、娼妓、待合茶屋、藝妓屋の復活狀態は次の表に見て分る

	貸座敷	引手茶屋	娼妓
新吉原	三〇四（二八八）	四六（四〇）	二五三六（一七三二）
新宿	五二（五二）	—	四二八（五九四）
洲崎	二〇一（二四一）	二三（六）	二二二六（一三九六）
品川	四四（四三）	六（四）	四二〇（四二三）
板橋	一二（一二）	—	一〇一（一一四）
千住	四三（四五）	—	二〇一（二三二）

田町	一五（一五）	—	九五（九二）
府中	五（五）	—	三二（二八）
調布	五（五）	—	三〇（三〇）
父島	二（二）	—	二（三）
計	六八三（七〇八）	七五（五〇）	六一〇五（四六四四）

（附記）　上部の數字が震災前、括弧内が今日復活の状態である。貸座敷に於て却つて震災前よりも増してゐるが、娼妓の數は著しく減少してゐる、これは離散したものが容易に歸つて來ないこと、貸座敷業者の資金難による抱への減少、一般不景氣の關係等にもよるだらう

次に待合茶屋と藝妓の方面を見ると

待合茶屋	震前	二〇五三	現在	二一二四
藝妓屋	震前	三六八一	現在	三三四二
藝妓數	震前	一〇一三一	現在	九六四四

（附記）　市部郡部を合した數で、これも待合茶屋は却つて増加し、藝妓數は減少してゐる。

劇場活動　劇場では帝劇が既に九分通りの本建築竣成して今秋十月一日より華々しく開場する。木挽町の歌舞伎座も本建築許可の指令をうけ、本年三月より工事にかゝり瓦葺の鐵筋コンクリート、前部が四階で後部が三階に地下室がつき、正面間口一二八七〇尺、奥行二三七三五尺、來る十一月末までに竣工、來春早々会場の豫定。各活動寫眞館も一階建木造のバラック、後方を少し高くしただけで並等（※なみとう）と特等席を區別し大抵四五百人乃至七百人を容れる程度に復活し、相當の□りを見せてゐる。その細別は

劇場		震前	焼失	残存	新築申請中	認可	審査中	現在開場數
	市部	二二	二〇	二	二一	二五	一	一九
	郡部	八	〇	八	二	二	一	八
	計	三〇	二〇	一〇	二三	二七	二	二七
眞寫動活		震前	焼失	残存	震災後新築申請數	認可	審査中	現在開場數
	市部	六四	四三	二一	八九	六三	一四	六六
	郡部	五八	二	五六	四二	二七	一一	六六
	計	一二二	四五	七七	一三一	九〇	二五	一三二
演藝場		震前	焼失	残存	新築申請中	認可	審査中	現在開場數
	市部	九二	六〇	三二	六五	五四	一〇	七五
	郡部	六七	—	六七	一五	一六	四	七五
	計	一五九	六〇	九九	八〇	七〇	一四	一五〇

活動寫眞では震災前大正十二年一月中の入場人員市郡部を通じて百七十六萬五千三百七十六人に對し本年一月中の入場人員は二百十六萬四千八百七十四人でかへつて三十九萬九千四百九十八人を増し、大正十二年五月の入場者百四十四萬二百四十七人に對して本年五月中の入場者百八十八萬九千三百七十六人と相變らず四十四萬九千百二十九名の増加であるに反し、演劇に於ては震災前十二年一月中の入場者六十四萬一千百四十五人に對し本年一月は二十一萬五千七百九十五人で四十二萬五千三百五十人の大激減となり昨年六月に對する本年六月中の入りも十四萬一千五十八人の減少を示してゐる。これは勿論大劇場が全滅し復舊が容易でないからである。

全滅の横濱と其の復興

東京に較べて横濱の復興はその震害が甚しかつたゞけに遥かに遲れてゐる。海岸通り縣廳跡附近にはまだ當時の惨状をそのまゝに髣髴（※ほうふつ）とせしむるものが多い。わづかに焼煉瓦や灰燼が整理されたといふばかりで焼残りの半ば崩れた廢墟の如き建物には秋の夕日が斜に落ちて、焼跡には雑草が生茂り此附近一帯はいつ元の通りになるか、と思ふが、一度橋を渡つて新山下町に至つて始めて横濱復興の悦びを見せられる。町の入口に立つた復興門のその名に恥ぢず本牧までもつゞいて立ちあがつたバラツクの一街は震災後に創められた横濱の復興街である。右に廻れば數千の市民を助けた横濱公園だが園内には横濱郵便局、憲兵分隊、裁判所が假のバラツクに事務を執り公園をとり圍んで生れたおでん屋、きんとん屋、すいとんのトタン商人は殆んど退去を命ぜられ横濱のメーン・ストリート伊勢佐木通りも折柄の夕暮れに電燈煌々、こゝにも復興の喜びをみる。稲荷山の麓には關西の二府六縣の寄附によつて建てられたバラツク村が開け、その名を關西村と呼び兵庫通り大阪通り奈良通りの道路もあつて、村の中には公設市場から、小學校、病院、圖書館と設備萬端がとゝのひこの村の住人一萬九千百十六名、五千二十三世帯は勿論、住民たると否とを問はず、横濱市民の感謝の的となつている。今この横濱復興の過程を數字の上から眺めてゆくと

戸數人口　　横濱市の人口は震災前大正十一年末の調査によると人口四十四萬八千五百四十人、戸數九萬三千七百七十五戸震災によつて焼失した家屋は五萬五千八百二十六戸、倒壊家屋一萬八千百四十九戸で残存家屋はわづかに一萬九千八百戸であつた。震災直後の昨年九月十九日現在の人口は三十萬九千五百六十人に減じたがその後家屋も漸次新築せられ人口も逐次増加して本年四月末には家屋數七萬四千四百四十戸、震災前の八割に相當し、人口も亦三十四萬七千六百〇八人、震災前の七割九分にまで戻つた。とはいへ今日尚ほ市内の各所に震災當時そのまゝの残骸を止めてゐるところも尠からず、震災前の人口増加率を以つてしても四十四萬人の震災前の人口に立返るには大正十八年度までもかゝらう。

在住外人　は震前在住者七千四百九十二人、震災直後の十二月には僅に百名を越えなかつたが、本年八月末の調査によると千百八十九人になつてゐる、之を國籍別にすると

	震前	現在		震前	現在
支那	四八五〇	七六四	英國	九二七	一四九
米國	五〇二	一一九	露國	三五八	八
獨逸	二〇〇	五〇	佛蘭西	一四〇	二五
印度	一一一	四	瑞西（※スイス）	九一	二三
葡萄牙	六六	九	和蘭	三八	五
伊太利	三〇	五	丁抹（※デンマーク）	一八	二
亜耳米爾亜（※アルメニア？）	一五	一	西班牙（※スペイン）	一四	零
瑞典（※スウェーデン）	一三	一三	波蘭（※ポーランド）	一三	零
墨西哥（※メキシコ）	一〇	零	秘露（※ペルー）	九	零
濠洲	九	零	ユーゴスラブ	八	一
諾威（※ノルウェー）	七	三	波斯（※ペルシャ）	七	零
チエツクスロバキヤ	七	零	希臘（※ギリシャ）	六	二
加奈陀	六	三	墺多利	五	零
白耳義	三	零	智利	三	零
亜爾然丁（※アルゼンチン）	二	零	土耳古	一	零
伯剌西爾（※ブラジル）	一	零	其他	二二	二
合計	七四九二	一一八九			

港湾　東防波堤全長約九百間のうち、端のところ六百十四間、北防波堤全長約千百三十間中その端二百五十五間は平均八尺沈下したので震災後少し荒れた日には堤内錨地でも風浪をうけ、荷役不可能の日が多かつたが、今日では兩防波堤とも修理完成し港口の左右に在つて略（※ほぼ）十尺陥没した赤白の兩燈も既に六月完成した。繫船の能力は震災前までは繫船岸壁（總延長千百間）に十二隻桟橋（總延長二百七十二間）に四隻、繫船浮標に二十隻、防波堤内錨地に三十隻を収容し得たが、右のうち二十個の浮標は災害を免れたので震前と同様の繫留を許してをる。繫船岸壁は殆ど全部崩壊したが復舊工事進捗して既に第六號岸壁は補修工事が出來上り六月に至り第九、十、十一號岸壁の工事も竣成し目下第三四號岸壁の基礎工事中である、その他の岸壁も漸次工事に着手し大正十四年三月中には全部復舊の豫定である。大桟橋は十四年度十月末に竣成の豫定。震災前には艀船の數が三千二隻この噸數二十四萬百六十噸もあつたが、震災によつて千七百七十三隻、十四萬千八百四十噸に減じ、現在では稍（※やや）恢復して約二千五百隻二十萬噸に達してゐる。税關構内及び港内の鐵道は延長九哩七分中岸壁工事その他の爲今尚ほ使用出來ないところが三哩、その他は震前と同様に復活し尚ほ横濱驛と税關構内とを連結する鐵橋及び線路の本工事も本年中には完成の豫定である起重機は震前電力によつて運轉するもの十九臺、蒸氣力によるもの三臺、人力に

よるもの四臺であつたが、これらは全部震害をうけて今日では五十噸機が一機あるのみである。

街路　第一着手として市内樞要なる十九路線を擴築改修し尚横濱驛前に四千九百坪、櫻木町驛前に四千二百坪の廣場を設置することゝなつてこの費用二千五百三十八萬二千四百圓、大正十七年度に亙る六箇年繼續事業として着手してゐる。

運河　堀割川と中村川及び堀河の二運河を擇んで（※えらんで）これを改修することゝなり在来の屈曲を除き幅員を擴築する計畫で、これも大正十七年度に亙る六年間の計畫事業としてゐる。

公園　現在市の公園は横濱公園（一九四四八坪）掃部山公園（四二七八坪）の二箇所であるがこれも六年計畫で更に左の四公園を増設する事になつてゐる。

日の出公園	四八〇〇坪	山下公園	二五〇〇〇坪
野毛山公園	二〇〇〇〇坪	神奈川公園	六〇〇〇坪
合計	五五八〇〇坪		

土地整理　市内焼失區域約三百萬坪につき實測を行ひ内約七十五萬坪を區劃整理地域と定め、これを十四區域に分つて更に精査を進めてゐるが、一方關係市民に對してはその趣旨を徹底せしむるため商業會議所、市復興會が躍起となつて市民に宣傳してゐる。

交通機關　震災當時市の交通機關は東京と同様殆んどその用を爲さず街路はいたるところ崩壞亀裂し橋梁は八十六橋中大江、吉田、辨天橋の三橋を除く他殆ど墜落焼失し、偶々（※たまたま）残るものは場末に架設せられた小橋で市要部の交通には全く關係なく一時交通は杜絶し河川もまた舟棹（※ふなざお）の便を失つてしまつたが去年の九月六日はじめて應急工事に手を初め工兵隊、陸軍技術本部の援助を待て同月二十日にいたり大體樞要地域の交通たけは回復し、一年後の今日では自動車の通行には殆んど支障なきまでに至り自動車は震災後著るしく増加した。橋梁も既に昨年末に於て八十六橋中六十八橋までは應急修理がなつた。電車は震災前の市電軌道の亙長（※こうちょう）十二哩六分、運轉車輛數一日平均百十八輛、乘車人員十三萬九千人であつたが軌道の全部架空線の全線を損じた、即ち

	震災前	被害
軌道	十二哩六	全部
架空線	十二、六	全線
車輛	一五二臺	焼失七三臺、破壞一六
建物	三一四八坪	焼失その他大破損二九三九坪
變電所	一七〇〇K・W	全部

舍宅　五五戸　　焼失一六戸、倒潰三九戸

十月二日神奈川、馬車道間の開通を見たのを初めに十月二十六日には全線復舊、現在では災前の車輛數百五十二輛に對し百六十九輛に増加し關係建物の建坪總數三千百四十八坪に對し二千百十五坪に復舊、變電所の千七百キロも二千六百キロワツトとなつた。

水道　水源地は神奈川縣津久井郡青山にあり、供給能力は八十萬人、一人當り平均一日四立方呎（※フィート）、當時水源地の本管その他主要部は大破して市内の給水断絶九月六日長塚良水合資會社、横濱給水合資會社、ジユラル給水合資會社、横濱清泉合資會社と水船提供の協議をなし直ちに給水に着手したが九月十三日にいたり西谷浄水場市内西戸部藤棚に到る八吋（※インチ）配水管の通水に依り上水道の一部はこゝに初めて市内に達するを得、十月末には市内残存家屋全部に給水の運びとなり現在では給水家屋三五〇〇〇戸に達してゐる。

電信電話　震災直後には京濱通信機關は全部用を爲さず海外電信はいふまでもなく内國電信も九月六日より辛うじて埼玉縣川口驛より通信するを得た次第であつたがその後の復舊狀態は

	震前	現在
内國電信着	一三六六	一〇一六
同　發	一九〇三	一八一九
外國電信着	五三四	一六七
同　發	五六五	二一〇

となり電話は昨年十月中旬にいたり初めて一部通話、現在では

	震前	現在
加入電話數	一〇三八九	三六四〇
通話所	一九	一七
自働電話	三六	四〇
従業員	六八七	四六九

電燈　市内の點燈及動力用電力は全部東京電燈株式會社の供給をうけ送電量は一日平均二三〇〇〇キロワツト、うち動力用として二三九〇七馬力（容量）既に震災前と大差はないが電燈に於ては震災前の燈數三十九萬七千七百七十二燈に對し現在燈數十九萬九千百五十五燈で各戸平均燈數は震前の五に對し現在は二、四燈、現在家屋の多くはバラツク式であるから今後本建築にすゝむにつれて燈數は増す。

瓦斯　震前は瓦斯製造工場は一箇所、その製造能力は百六十四萬立方呎であつたが震災當時その設備は根本的に破壊されたので容易に復舊しない市内のホンの一部に對する瓦斯の供給をなし得るのは本年末のことと見られてゐる。

活動寫眞　震災前は十五館、何れも二階又は三階建、看客七八百名から千二三百名を容れてゐたが震災により大部分は被害、現在では十五館復舊、新たに一館を增して十六館となつた。

劇場　横濱座、喜樂座、朝日座、横濱劇場の四劇場であつたが横濱座を除く他の劇場は復興し更に横濱帝國館が開業した。寄席は九月以前は十一、災後復興せるもの六、新設二

鎌倉小田原は何うなつた

東京から國府津に至る鐵道の各驛は品川、國府津外一二を除いて全部倒潰、全燒大破したが今は凡てその附近に木造バラツク建の假小屋が出來上り雨露を凌いで切符賣場に當てゝゐる。待合室のない驛もあり、驛の外部なる簀子（※すのこ）張りの待合室では太陽は凌げても雨は凌げさうにもない。然し當時波のやうにうねり曲つた線路や恐ろしい亀裂を生じたフオームは凡て修理され馬入用の大鐵橋も今年の八月十四日に美事（※みごと）試運轉通過に成功し十五日より下り線は從事の補橋、上り線はこの復興の新鐵橋により複線開通の鬨の聲を擧げた。と同時に途中沿線の被害の激甚を極めた各町村も汽車の窓から見ゆる限りは全部トタン屋根の復興を見せ、中には家の周圍に緑樹を植ゑた文化住宅まがひのバラツクも見える。

鎌倉　鎌倉は鎌倉町小阪村、玉繩村、村岡村、深澤村、川口村、腰越津村を合して普通鎌倉といはれてゐるが

	總戸數	人口
震災前	七三九一	三六八四三
現在	六五八七	三三九三四

即ち震災前に比し戸數に於て八百四戸人口に於て二千九百九人を減じてゐる。このうち現在戸數及び人口の内譯を示すと

	戸數	人口
残存戸數	三一六二	一六五四七
半壞家屋	二五八	一二〇七
新築家屋	二二三八	一一一二〇
バラツク	七八四	四二一六
掘立小屋	四七	三七〇

海岸方面別荘地帶では毎夏お見えになる伏見宮邦芳殿下の御別邸を始めとして故松方公、島津忠承侯、前田利爲侯、淺野惣一郎、西川伯、伊地知男、花山院侯、近衛秀麿公、中村是公の別荘が全部潰れたまゝまだ復舊しないといふ有様、從つて今年の鎌倉は頗る物寂しく山階宮武彦親王殿下の王妃佐紀子妃殿下御遭難の御別邸も今尚そのまゝで秋草にすだく蟲の音のもれきこゆるのもおいたはしき限りである。鎌倉の大佛は最初の地震に一尺五寸ばかり搖り出し二回目の地震に五寸ばかり搖り戻したが今のところ墓石に應急修理を加へたのみでそのまゝに殘されてをる、近く修理にかゝる筈。八幡宮の舞殿も取拂はれて今は七五三のしめ繩がその跡に張り巡らされてある、燈樓の倒れたのもそのまゝ。全壞した中學校師範學校はバラツク建で復舊し郵便局も同様にバラツク建ち、警察は半潰のものを引起してその中で事務をとつてゐるが毎年見る五六千の避暑客も今年は二千四五百に減じた。

小田原　は現在バラツク數が千三百四十、人員五千百九十七人、殘存したものは纔に（※わずかに）七百三十四戸、四千百二十八人で新築家屋千七百四十七、人口九千四十人、これを足柄下郡全體の上から見ると新築家屋四千四百十二戸（二萬三千二十一人）バラツク三千二百八戸（一萬四千六百五十八人）掘立小屋千五百三十一戸（八千二百二十四人）その他九十三戸（六千三百七十四人）で震災前に比較すれば戸數二百五十四戸、人口五千七百九十一人減じてゐるが、小田原町としての復興率は横濱なんかに比して四五割も早く殆んど本建築で復舊してゐる。殊に同町目貫きの大通りなる幸町のごときは震災前よりも美しく宮小路の劇場や活動寫眞館も以前に倍加して賑はしい。たゞ道路だけは尚ほ荒れてゐる。御用邸は安政の地震に崩れなかつた石垣も今度は滅茶々々に崩れてひどく荒れてゐるが昨年のまゝの状態におかれて、御用邸の中の一隅にバラツクを建てゝ小田原高女が假授業を續けてゐる。小田原中學も焼失を免れたが大破したので目下取壞つてバラツクで開校、警察は一階がへちやばつて二階が地に着いたので目下二階をそのまゝ一階にして使つてゐる。郵便局も町役場も假建築のバラツクで區裁判所だけが新しく本建築が殆んど出來上つてゐるがこの地は豫想外に復興が速かだつた。